

大学院・大学・短期大学部

アートパーク6 ～みんな子ども宣言～

7月7日(日)、大学に程近い松戸中央公園で「アートパーク6～みんな子ども宣言～」(主催/聖徳大学児童学研究所、生涯学習研究所)が開催されました。

『みんな子ども宣言』は、アートパークに集まるすべての人(子ども、学生、大人ら)が子どもの時間や気持ちを共有することで新たな「学びの場」を創造することをねらいとしました。

当日は、猛暑にも関わらず過去最高の1,192名の親子が集まり、公園のさまざまな場所を生かした8つのワークショップを一日楽しみました。今回で6回目となるアートパークは、徐々に知名度も高まり、松戸市のみならず東京や埼玉からの参加者もありました。

それぞれのワークショップは、昨年同様、児童学科のゼミ等(大成ゼミ、柴山ゼミ、野上ゼミ、細戸ゼミ、北沢先生・保育科有志、美術部)と、地域団体(松戸子育てさぼりとハーモニー、松戸まちづくり会議、アトリエミルクル、KEYAKIDSーケヤキッズ、クリエイティブまつど工房)がチームとなり、地域や松戸市、大学事務局らと密接に関係を築きながら企画、運営を行いました。各々が持つノウハウが生かされたアートパークは、学内に留まらない松戸のマンパワーが集結するプロジェクトに発展してきました。

また各ワークショップは、場所、もの、人との関わりをより重視した充実した内容になりました。例えば、大量の段ボールで作った「ピカソチック」での絵具遊び(大成ゼミ)。木漏れ日のある空間を生かした「こもれび



The Matsudo Hatter —いかれ帽子屋—



おかしな家



クルクル象バスパレード

すいぞくかん(柴山ゼミ)。大量のスライムで遊んだり(細戸ゼミ)、新聞紙等で帽子を作る「いかれ帽子屋(野上ゼミ)」。KEYAKIDSからの発案を園児や学生らと具現化した「おかしな家(保育科有志)」。造形教室ミルクルと美術部はパレードを行い、それぞれの活動をつなげました。

参加者からは「普段できない貴重な体験だった」などの声が聞け、今後も内外の関係を発展させながら継続していきたいと思っています。

(児童学科 准教授 大成 哲雄)